

社会科学学習指導案

1 単元名 「日本の工業の特色」(日本文教出版)

2 単元の考察

(1) 教材観

①学習内容：学習指導要領上の位置づけ

- ・第5学年の内容(3) 我が国の工業生産
- ・ア(ア) 我が国では様々な工業生産が行われていることや、国土には工業の盛んな地域が広がっていること及び工業製品は国民生活の向上に重要な役割を果たしていることを理解すること。
- ・ア(イ) 工業生産に関わる人々は、消費者の需要や社会の変化に対応し、優れた製品を生産するよう様々な工夫や努力をして、工業生産を支えていることを理解すること。
- ・ア(ウ) 貿易や運輸は、原材料の確保や製品の販売などにおいて、工業生産を支える重要な役割を果たしていることを理解すること。
- ・ア(エ) 地図帳や地球儀、各種の資料で調べ、まとめること。
- ・イ(ア) 工業の種類、工業の盛んな地域の分布、工業製品の改良などに着目して、工業生産の概要を捉え、工業生産が国民生活に果たす役割を考え、表現すること。
- ・イ(ウ) 交通網の広がり、外国との関わりなどに着目して、貿易や運輸の様子を捉え、それらの役割を考え、表現すること。

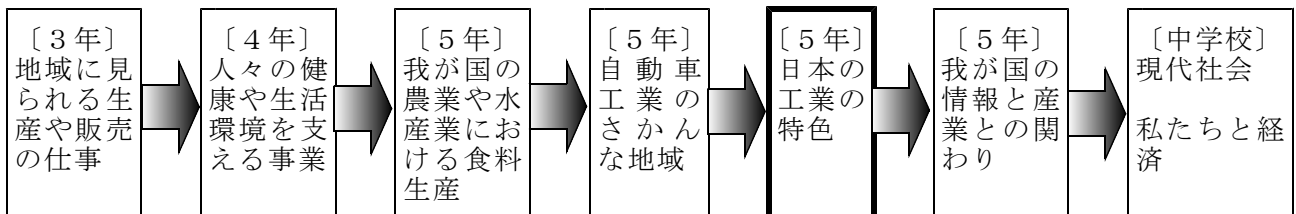
②主な伸ばしたい資質・能力

- ・工業が盛んな地域の分布と立地条件、工業製品・原料の輸出入に対する関心。
- ・既習内容や知っている知識を生かし、新たな知識や見識を得ようと追究する意欲。
- ・日本の工業の特色を調べるために必要な課題を見いだす力。
- ・地形図や分布図、統計資料、グラフ・表などの各種資料を適切に読み取る技能。
- ・資料から読み取った情報を学習課題と関連づけて考えられる力。
- ・工業の盛んな地域の分布や貿易や運輸の様子を白地図等に適切にまとめ、表現する力。
- ・貿易や運輸、中小工業の高い技術力が日本の工業生産を支えていることについての理解。
- ・日本の工業地帯・工業地域や加工貿易の実態と貿易摩擦についての知識。

③そのために必要な指導・学習内容

- ・社会的事象を関連づけて予想させたり、各資料の提示の工夫やクイズ等を活用したりすることで児童の興味を引きつける。
- ・既習内容や知っている知識を元に何度も調べ学習をすることで、追求する活動に慣れ親しませる。
- ・教科書を大観することを通してこれから学習する単元を簡単に見通すことで、何をどのように学ぶのか児童自ら考える時間を設定し、全体で話し合っして学習の順序と学習の内容を捉えさせる。
- ・各種資料を考察し判断する場面を設定し、友達や全体で意見交換などして確認させることで読み取りのポイントを知り、次の資料の読み取りにつなげていく。
- ・小さな予想や仮定を立てて考える積み重ねをさせ、新しい情報が得られたら1つの社会的条件と比較・関連させて考える習慣をつける。
- ・単位時間のまとめや単元のまとめに学習した振り返りとして、白地図等に色つけや矢印の大小、グラフを描く作業をする時間を設定する。
- ・工業の盛んな地域の分布と貿易や運輸との関連を考えさせることや、日本の高い技術力が支えている加工貿易の実態を調べることで、日本の工業の特色の理解を深める。
- ・振り返りシートや地図を使用した場所の確認を通して、太平洋ベルトや加工貿易、貿易摩擦等のキーワードの地図上の位置や意味を押さえ、くり返し学習プリントをすることで知識として定着させる。

④教材の系統



(2) 児童生徒の実態及び指導方針(23名)

①本単元に関わる児童生徒の実態

児童はこれまでの学習において、調べ学習の経験を多く積んできた。学習計画を立て、どの児童も単位時間の学習課題を解決しようと主体的に調べる姿があった。また、意見交流にも意欲的に参加し、向上心をもって学習に取り組んできた。全体での考察を通して、多面的・多角的な見方があ

ることも学んできた。また、各自が社会的事象の見方・考え方を深めてきた。

【関心・意欲・態度】前単元の「自動車工業のさかんな地域」の学習を通して、消費者の需要や社会の変化に対応したり、高い技術力をさらに高めたりする工業生産に関わる人々の工夫や努力を捉えようとする態度が育ってきている。学習課題を粘り強く解決しようとする意欲はもちろん、さまざまな立場に立って考え、その人の立場を理解しようとする児童が多くなってきた。

【思考・判断・表現】ほとんどの児童は資料から必要な情報を読み取れるが、苦手な児童も数名いる。また、読み取った情報を学習課題に合わせて表現することになると、さらに苦手とする児童が増える。進んで発言できる児童も多くいるが、意図的指名により発言させると違った見方や考え方で学習課題に近い意見を言える児童もいる。「この判断で間違っていなかった」「こんなふうに表現すればいいんだ」という経験を積ませ、多面的・多角的な見方を全体で受容していくことで一人ひとりに自信をつけさせることにより思考・判断・表現力を高めている段階である。

【技能】課題解決に向けて、調べる範囲が広がったり、材料が多かったりするとなかかな情報を集められない児童が多い。しかし、どの子も教師が調べる範囲を絞ってあげたり、材料を少なくしてあげたりすると手がかりが見つかりやすくなるため、解決に向けて情報が集められる。そのため、精選された資料の中で調べ学習をしているのが現状である。また、問題解決に沿ってノートや白地図にまとめる力は個人差はあるものの、的確にできる児童が多い。

【知識・理解】前単元の「自動車工業のさかんな地域」の学習では、消費者の需要や社会の変化に対応し優れた自動車を生産していることに着目して調べることで、自動車生産に関わる人々は、様々な工夫や努力をして工業生産を支えていることを理解してきた。その中で、工場相互の協力関係や自動車の出荷などを通して、本単元で学習する内容に関連する知識を身につけている児童は多い。本単元は、「日本の工業の特色」と範囲が広く、工業生産の学習を一般化するような内容なので、前単元の既習の知識等を結びつけながら日本の工業の特色を理解させたい。また、『太平洋ベルト』や『加工貿易』、『貿易摩擦』等重要な言葉は、日本地図と照らし合わせ既習の地名と関連づけて覚えさせたり、分布図から得た情報を諸外国の輸出入品と関連づけて覚えさせたりして、知識を定着させたい。

②指導方針

「つかむ過程」では、教科書・資料集を使い本単元で学習する内容を大観することで、前単元の「自動車工業のさかんな地域」は工業生産の具体例であり、本単元の「日本の工業の特色」は工業生産の一般化を目指す単元であることに気づかせる。また、一般化をするにあたって日本ではルール工業地帯のようにライン川のような大河川に大型船が入ることはないので、世界とは区別し、あくまでも日本の中での一般化にとどめる。

基本的には児童からの問いを関連づけて、児童の言葉をもとに単元の課題を設定する。しかし、難しい場合は何の視点で特色を捉えるか助言する。助言の内容としては以下の3つの視点「工場が集まる地域」「工場の規模や職場環境」「貿易や運輸での海外との関わり」を挙げる。また、児童とともに学習計画を立てることで、本単元で学習する内容の見通しをわかりやすくもたせるようにしていく。

「追究する過程」では、教科書と資料集に載っていない資料も児童に身につけさせたい力を考えた上で、意図をもってタイミングよく提示する。また、単位時間で主体的に調べ学習した内容を多面的・多角的に気づき、考えられるように、対話的な交流活動を設定する。多面的・多角的な見方を養うために、大工場や中小工場、社長や労働者、日本と他国など立場を分けた議論等も有効に活用していく。さらに、追究する中で、キーワードと地図上での位置を関連して覚えさせるために地図帳をもたせたり、白地図に描写させたり、時にはICTを活用しわかりやすく提示したりする。併せて、矢印やグラフの色塗りをさせることで、量の多さや大きさを体感できるような工夫もしていく。

単元の課題を意識し、単元全体としてのつながりをもたせるために、単位時間ごとにめあてとまとめの整合性を注目させていく。

「まとめる過程」では、『日本の工業の特色は？』と開かれた発問をすることで、今までの単位時間のまとめを振り返らせ、それを活かして自分なりの言葉でまとめ表現させていく。つかむ過程で出された3つの視点「工場が集まる地域」「工場の規模や職場環境」「貿易や運輸での海外との

関わり」に分類し関係性を図式化することで、概念等に関する知識の習得に役立てる。最後に、単元の課題について自分の考えを、図やイラスト、グラフ等を交えながら振り返りシートにまとめさせることで、学習の深まりを実感させる。

3 単元（題材）の目標

- ・我が国の工業生産や工業地域の分布、工業を支える運輸などの働き、各種の工業生産が優れた技術を開発・伝承しながら営まれて国民生活を支えていることを理解できるようにする。
- ・工業生産や国民生活を支える我が国の貿易の特色や役割を理解し、その課題や発展について考察できるようにする。

4 評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
・我が国の各種の工業生産の様子と特色、働く人々、工業を支える運輸や貿易について関心をもち、意欲的に調べることを通して、国民生活を支える我が国の工業生産の発展を考えようとしている。	・我が国の工業生産の様子と特色、働く人々、工業を支える運輸や貿易の働きについて学習問題や予想、学習計画を考え表現し、調べたことをもとに、我が国の工業生産は国民生活を支える重要な役割を果たしていることを考え、調べたことや考えたことを適切に表現している。	・我が国の各種の工業生産の様子や工業地域の分布、工業生産を支える貿易や運輸の働きなどを、地図や地球儀、統計などの各種の基礎的資料を活用して具体的に調べ、調べた過程や結果をノートや白地図等にまとめている。	・さまざまな工業生産が国民生活を支えていること、我が国の各種の工業生産の様子や工業地域の分布、工業生産を支える貿易や運輸の働きを理解している。

5 学習計画

過程	時	○ねらい ・学習活動	・指導上の留意点	評価の観点			
				関	思	技	知
つかむ	1	<p>○課題を把握する</p> <p>・日本の工業に関心をもち、単元の課題を設定し、調べる計画を立てる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">めあて：単元の学習内容を大観して、単元の課題を立てよう。</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">【単元の課題】 日本の工業はどのような特色があり、世界の国々とどのようにつながっているのだろうか？</div>	<p>・教科書と資料集を使って、単元の学習内容を大観させる。</p> <p>・児童の気付きや疑問を元に、単元の課題を設定できるように、児童の発言やつぶやきに問い返したり、新たな資料を提示したりする。</p> <p>・児童から出た気付きや疑問、予想を元に単元の課題を設定できるように、板書からキーワードを取り上げ、単元の課題の設定につなげていく。併せて調べる計画も立てる。</p>	○	○		
追究する	2 本時	<p>○課題を追究する</p> <p>・地形図から工業がさかんな地域の立地条件を考える。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">めあて：日本では、工業がさかんな地域はどのような場所なのだろうか？</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">まとめ：平地で、工業用水に使う川があり交通の便が良いところ。また、労働者確保のため、人口の多い都市が近くにあり、港があるような海岸ぞいがよい。</div>	<p>・拡大した簡単な学習計画を掲示しておく。</p> <p>・本時のめあてを解決する個々の技能を確認するために、全体で地形図の読み取りの簡単な復習をする。</p> <p>・資料から読み取った情報と描いている立地条件とを考察させるために、簡単な言葉でメモさせる。</p> <p>・多面的・多角的な見方ができるように、調べ考察したことを児童間で対話的な交流をさせる。</p> <p>・全体で確認したことが事実かどうか確かめるために、工場地帯の航空写真・グーグルアースを用いる。</p> <p>・最近の内陸型の工業地域が増えていることを伝える。</p>		○	○	

3	<p>・工業地帯・工業地域の位置を覚え、そこで何を作っているのかを調べ、特徴を見いだす。</p> <div data-bbox="244 241 702 398" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>めあて：日本の工業がさかんな地域を確認しよう！また、それらの地域ではどんな種類のものを作っているのだろうか？</p> </div> <div data-bbox="244 454 702 728" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>まとめ：日本の工業がさかんな場所は「太平洋ベルト」で、最近は交通の便の良い内陸にも広がっている。どの工業地帯・工業地域でも機械類を多く作っている。海沿いの工業地域では、化学工業がさかんなところもある。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・前時のまとめとの整合性を確認するために、地図帳の地勢図と工業地帯・工業地域の図を比較させる。 ・工業地帯・工業地域名を覚えやすくするために、地名の読み方を組み合わせたり、場所をつなぎ合わせたりする。また、例示しながら白地図に色を塗らせる。 ・機械や金属工業が多い日本の特徴に気づかせるために、各工業地帯・工業地域で生産される品目と割合を確認させる。 ・北九州工業地帯が衰退し、関東内陸工業地域の生産額が増えてきている理由を「材料」「運輸」面から考えるために、資料を用意する。 ・多面的・多角的な見方ができるように、調べたことを児童間で交流させる。 		○	○
4	<p>・大工場と中小工場の違いを明確にし、中小工場の高い技術力のすごさを理解する。</p> <div data-bbox="244 880 702 1059" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>めあて：日本の工場はどのような規模なのだろうか？また、中小工場の仕事を調べ、日本の工業分野ではどのような役割があるのかを考えよう！</p> </div> <div data-bbox="244 1115 702 1294" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>まとめ：日本のほとんどが中小工場である。中小工場は働く人が少なく、大工場の下請けをしていることが多い。高い技術力と協力で日本を支えている。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・大工場と中小工場を比較し違いを明確にするために、帯グラフと棒グラフに色を塗らせ、情報を読み取らせる。 ・立場の違いで思いや願いが違うことに気づかせるために、大工場と中小工場に分けて話し合わせる。 ・中小工場の高い技術力のすごさがわかるように、スカイツリーやロケット部品に製品が使用されるなど、用意しておいた資料の提示を工夫する。 ・中小工場の協力の大切さをわからせるために、前単元の自動車工業で学習した「関連工場」を思い出させる。 		○	○
5	<p>・労働者の立場で働きやすい職場を考える。</p> <div data-bbox="244 1411 702 1534" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>めあて：労働者にとって、どんな職場が働きやすいのだろうか？</p> </div> <div data-bbox="244 1590 702 1736" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>まとめ：時間がしっかり守られ、パワハラ等がない。様々な差別もなく安全で安心して働ける職場。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・実際にきまりが守られているか確認するために、教科書に載っている資料「働く人を守るためのおもなきまり」を読み、話し合わせる。 ・関心を高め、労働者の立場として考えやすくするために、「ブラック企業」や「働き方改革」について取り上げる。 ・女性や外国人の労働者が増えていることを実感できるように、グラフから情報を読み取らせる。 ・自分たちが働く年頃になったときにどのような職場になってほしいのか、文章で願いを書かせる。 		○	○
6	<p>・製品を作るための材料について話し合い、日本の輸入の特色を考える。</p> <div data-bbox="244 1892 702 2004" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>めあて：製品の材料やエネルギー資源は、どこからどのようにもってくるのだろうか？</p> </div> <div data-bbox="244 2072 702 2112" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>まとめ：日本は、工業製品をつ</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・輸入に視点が当たるように、「鉛筆」と「消しゴム」を例にとって、製品にするときどんな材料が使われていてどこから運ばれるのか話し合わせる。 ・どんな国からどのくらい日本は輸入しているのか確認するために、世界白地図に矢印を描き、色を塗らせる。 ・最近の輸入品事情を確認するために、「エネルギー資源」「日本の 		○	○

	<p>くるための資源が少なく、原料やエネルギー資源をたくさん輸入している。ほとんどが船やタンカーを使っている。中東やオーストラリアからの輸入が多い。</p>	<p>輸入品の内訳と変化」を調べさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 最近の輸入事情を体感させるために、身近にある外国製の工業製品を見つけさせる。 			
7	<ul style="list-style-type: none"> 日本の輸出品の内訳の変化について話し合い、加工貿易の特色を捉える。 <p>めあて：日本で生産された製品はどこに、どのように運ばれるのだろうか？</p> <p>まとめ：日本は加工貿易で発展した。世界中に輸出され、特に中国・アメリカ、アジア周辺との貿易がさかんである。主にタンカーなどの大型船が使われる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 機械類が多いことを確認するために、「日本の輸出品の内訳と変化」のグラフを読み取らせる。 名古屋港の写真を見せ自動車が出出されていることを思い出させた後、重いものと軽いものとの運び方に違いがあることに気づかせる。 日本と関係の深い貿易相手国に気づかせるために、「日本の貿易額の多い国・地域」の地図を完成させ、最後に円グラフの大きさは何を表しているのか問う。また、完成させた地図中のグラフで輸出入のバランスを確認させることで、工業先進国と発展途上国の違いがあることに触れる。 			○ ○
8	<ul style="list-style-type: none"> 貿易によって引き起こされる問題を知り、改善方法を話し合う。 <p>めあて：貿易ではどんな問題が起きてきたのだろうか？また、解決するためにどんな取り組みがされているのだろうか？</p> <p>まとめ：日本の製品は性能や耐久性がよいので外国で人気が高く、貿易摩擦を起こしてきた。現在は外国に工場を移したり、自由貿易に向けて話し合いを続けたりしている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 本時のめあてに近づけるために、新聞記事の「米中貿易摩擦」や最近の日韓の貿易をめぐる問題を見せ、関心を高める。 貿易摩擦での問題を身近に捉えさせるために、自動車を例にして自国と相手国でどんな問題が起きるのか話し合わせる。また、立場を逆にして考えさせる。 貿易摩擦を解決するための世界の取り組みを理解させるために、教科書や資料集を元に調べさせ、言葉の意味を覚えさせる。 立場の違いを理解させるために、工業にとってはTPPなどの取り組みはいいかもしれないが、農業は大打撃を受けるかもしれないという問題点も補足する。 			○ ○
まとめ	<p>9 ○課題をまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 単元の課題について、友達の発表を聞き、自分の考えをまとめる。 まとめの文を読み直し、これまでの学習を振り返る。 <p>めあて：日本の工業の特色はどのようなことだろうか？また、工業では世界とどのようにつながっているのだろうか？</p> <p>まとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> ○太平洋ベルトや交通の便が良い内陸が工業のさかんな場所。 ○多くの中小工場が高い技術を生かして下請けしている。 ○労働者は安心・安全な職場を求めている。 ○日本は原料を輸入し高い技術力で製品を生産する加工貿易によって発展してきた。世界 	<ul style="list-style-type: none"> 授業時間では「表現」・「技能」を見取るため、振り返りシートを宿題でやってこさせる。 宿題に出す際、「日本の工業の特色」については日本の工業のさかんな地域と工場の種類・職場環境を、「世界とのつながり」については、日本の輸出入と貿易をめぐる問題を参考にしてまとめるよう、助言する。 思考を整理させるために、地図やグラフ等を使って関連づけを行わせるようにする。 単元のまとめができるように、振り返りシートを見せながらグループ内で発表会を行わせる。 開かれた発問「日本の工業の特色は？」と聞き、全体でポイントをまとめていく。 単元を通して自分の考えの深まりを実感させるために、まとめの文をこれまでのワークシートの記述と比較させる。 			○ ○

中の国々と貿易をしている。
○貿易摩擦解消に向けて新たな
取り組みが進めれている。

6 本時

(1) ねらい

地形図から読み取った情報を元に、日本での工業がさかんな地域の立地条件を考察することができる。

(2) 授業改善の視点

地形図で読みとった情報を元にして、全体で対話的な話し合いでの交流を通して考察させることは、工業がさかんな地域の立地条件を理解することに有効であろう。

(3) 準備

提示資料・調べさせる資料・ワークシート・パソコン・プロジェクター・大きなホワイトボード
・スマートフォン

(4) 展開

学習活動 ・予想される児童生徒の反応	時間	指導 形態	指導上の留意点及び支援・評価 ◎努力を要する児童生徒への支援 ◇評価
1. 工業地帯・工業地域の写真を見て、予想をもとに本時のめあてを立てる。 ④土地が低く平らなところ ④海（港）に近いところ ④交通の便がいいところ	5分	一斉	<ul style="list-style-type: none"> 今後の見通しをもったり、追究活動で深まりを感じさせたりするために、口頭で簡単に予想を立てさせる。 意欲的な追究活動につなげられるように、予想が真実かどうか確認しようと投げかけ、本時のめあてを設定する。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【本時のめあて】 ・日本では、工業がさかんな地域はどのような場所なのだろうか？</p> </div>			
2. 地形図から情報を読み取り、工業がさかんになる要素を理由として考える。 ・Bの地区→インターチェンジと駅が近い ・Dの地区→インターチェンジと港が近い ・Eの地区→インターチェンジと港が近く、川もそばにある。住んでいる人も多そう。	8分	個人	<ul style="list-style-type: none"> 全員が見ることができ学習課題として把握させるために、大きな地形図を提示をする。 地形図の決まりを思い出せるように、全体で簡単に地図の決まりを確認する。 ◎机間指導をし、学習課題にそって地図記号やきまりを理解できるように指さし確認しながら助言をする。また、それでも悩んでいる児童には、提示した写真を手持ちし、地形図と見比べながらヒントを出し、地図記号やきまりの意味を教えていく。 個人の考えが可視化できるように、児童に自分のマグネットを黒板に貼らせる。
3. 読み取った情報と自分で考えた理由を元に、自動車工場の社長という立場での適した立地条件を探し出せるように対話的な話し合いによる交流をする。	20分	全体	<ul style="list-style-type: none"> 多面的・多角的な見方ができ、新たな発見にもつながるように、選んだ場所が同じ児童全員を起立させ、メリットを述べさせる。全て終わった後、反対意見等も交えて全体で対話的な話し合いでの交流を行う。 話し合いが有効な時間となるように、話し合いの目的（一番いい立地条件を探し出す）を伝える。また、メモをとっておくように促す。 児童が話し合いの中心になるよう、ハンドサインや友達の意見につなげる意見の出し方を予め指示し、教師はコーディネーターとして話し合いを支援する。 ◎起立して意見が言えない児童に対して、「この意見に付け足しすることは？」「同じ意見でいい？」など、意図的指名をし、意思表示をさせる。 話し合いに深まりがあるよう、児童には「一番いい立地条件を探し出す」ことを目的に伝えるが、今回は概念等に関する知識をつけ、
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>(記入例) Eの地区</p> <p>理由：インターチェンジと港が近く、川もそばにあるから。また、近くに人が多く住んでいそうだから。</p> </div>			

			<p>一般化することが目的なので、理由や根拠が明確であれば、教員は複数の意見を容認する腹づもりで指導にあたる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 話し合いを通して考えが変容した児童にマグネットを移動させ、立地条件のポイントとなるキーワードにつなげられるように、考えの変容の理由を聞く。
<p>4. 全体で立地条件のポイントを見つけ、キーワードを出し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「土地が低く平ら」 「港に近い（海沿い）」 「交通の便が良い」 「川が近い」 「都市が近い」 （敷地面積が広いので）「地価が安い場所」 	7分	一斉	<ul style="list-style-type: none"> 立地条件のポイントを整理するために、考えの変容の理由を色チョーク等で工夫して板書していく。 説明不足や付け足しが必要な場合は、聞いている人が納得できるように、教師が切り返しの質問をしてまず本人から補足説明をさせ、その後周りにも補足をさせる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>◇さまざまな情報を比較・関連し検討する中で、日本での工業がさかんな地域の立地条件を考察している。【思考・判断・表現】</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> 児童が考え、全体で共有したことが実際にあっているのかを確認するために、拡大した京浜工業地帯の航空写真を見せる。 最近の傾向である内陸型の工業地域を「SUBARU」を例にして、運輸の様子もわかるように、グーグルアースを用いて伝える。
<p>5. 本時のめあてに照らし合わせ、学習の振り返りをする。</p> <p>例：（日本で工業がさかんな地域は）土地が平らで港に近く、交通の便がよいところです。また、川が近く都市も近いところです。</p> <p>例：（日本で工業がさかんな地域は）建物が立てやすい平地で輸出入に適した港が近くにあり、運輸に便利な交通の便が良いところです。また、工業用水が引ける川が近く、労働者の確保がしやすい都市の近くです。</p>	5分	一斉 ↓ 個人	<ul style="list-style-type: none"> 個人の振り返りにつなげられるように、全体で本時のめあてに照らし合わせたまとめを口頭で出させる。その際、まとめの出だしを書いたカードを用意しておき、全体でまとめたポイントを指さし確認していく。 ◎文章にまとめられるように、まとめのポイントやキーワードを参考にさせたり、文型の最後を教えたりして口頭で言わせたことを書くよう促す。 次時につなげられるように、地図帳を持たせ本時で学習したことを元に日本で工業がさかんな地域を具体的に探させる。

7 板書計画

11/26（火） 日本の工業の特色

工業地帯
・地域の
写真1

工業地帯
・地域の
写真2

工業地帯
・地域の
写真3

工場が多く集まり、工業がさかんなところ
＝「工業地帯・工業地域」

【めあて】日本では、工業がさかんな地域はどのような場所なのだろうか？

【予想】

- ・土地が低く平らなところ
- ・海（港）に近いところ
- ・交通の便がいいところ

A
ネームプレート
理由

D
ネームプレート
理由

B
ネームプレート
理由

E
ネームプレート
理由

C
ネームプレート
理由

F
ネームプレート
理由

ポイント

- ・平地
- 建設しやすい
- ・IC・駅の近く
- 交通の便がよい
- ・人口が多い地域
- 従業員確保
- ・川が近い
- 工業用水確保
- ・港が近い
- 輸出入しやすい
- （・地価）
- （→安い土地）

※学習課題の「地形図」と確認のための航空写真・グーグルアースは大きなホワイトボードに提示